

脊椎外科

1. 概要

脊椎外科は、平成17年4月1日より院内標榜科として新設された。現在、脊椎外科医は2名であり、整形外科スタッフの協力を得ながら診療を行っている。年間200件ほどの手術治療を行っているが、頸髄症、脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアが脊椎外科における3大疾患であり、手術例のほとんどを占める。稀な疾患においては、名古屋大学整形外科脊椎グループと連携をとりながら、できるだけ当院内で高いレベルでの治療が行えるよう対処している。脊椎疾患の治療には、保存的治療と手術的治療を病態に応じて選択し、的確に実施して行くことが重要である。保存的治療もさることながら、とりわけ手術的治療が必要な方に対する十分な治療の提供が当院の使命と考えている。当院での治療成績より得られた貴重な医学的知見について、脊椎外科の発展に寄与すべく国内外の学会および医学雑誌上での発表も行っている。

(部長 吉原 永武)

スタッフ： 吉原 永武 (部長) 井上 太郎 富田 浩之 (兼整形外科医員)

主な対象疾患：

腰椎椎間板ヘルニア 腰部脊柱管狭窄症 頸椎症性頸髄症 腰椎こり症・分離症 頸椎椎間板ヘルニア 後縦靭帯骨化症・黄色靭帯骨化症・黄色靭帯石灰化症 リウマチ脊椎 透析脊椎 脊髄腫瘍・脊椎腫瘍 脊椎感染症 脊椎外傷 その他

手術症例 188例 (2013年1月～12月)

頸椎椎弓形成術	35例
頸椎椎間孔拡大術	1例
頸椎前方除圧固定	5例
頸椎後方固定術	6例
胸椎除圧固定	1例
胸椎椎弓切除	6例
椎間板ヘルニア摘出	21例
椎弓切除 (腰椎除圧術)	44例
脊椎固定術	33例
胸腰椎前方固定	7例
胸腰椎後方固定	14例
脊椎・脊髄腫瘍	7例
脊椎外傷 (上記重複あり)	20例
その他	8例

学会発表（医局）

<脊椎外科>

※丸数字は共同研究者を示す

No.	演 題 名	発表者及び 共同研究者	学会・研究会名	発表年月日
①	骨粗鬆症脊椎圧迫骨折後の遅発性神経障害に対する後方固定術の成績(CPCによる椎体形成術)	富田 浩之	第120回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	2013/4/6
②	脊椎圧迫骨折に対する体幹ギプス固定の有用性についての検討	井上 太郎	第120回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	2013/4/6
③	高齢者の頸髄症の手術成績－歩行能力獲得の有無－	富田 浩之	第42回日本脊椎脊髄病学会	2013/4/25
④	初期の体幹ギプス固定は骨粗鬆症性脊椎圧迫骨折の治療に有用であるかどうかの検討 ～prospective study～	井上 太郎	第42回日本脊椎脊髄病学会	2013/4/25
⑤	頸部神経根症における椎間板内注入療法および選択的神経根ブロック	吉原 永武	第121回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	2013/10/3
⑥	急速に歩行障害を来した胸髄angiomatousmeningiomaの1例	富田 浩之	第121回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	2013/10/3
⑦	L5/S腰部外側神経根障害に対する顕微鏡下外側開窓術の治療成績	富田 浩之	第121回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	2013/10/3
⑧	脊椎術後遺残症状におけるプレガバリンの効果	富田 浩之	第121回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	2013/10/3

講演（医局）

<脊椎外科>

※丸数字は共同講演者を示す

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	年月日
①	CPPDによる急性腰痛を来した1例	磯野 正晶	東海地区 整形外科集談会地方会	2013/9/21
2	「脊椎外傷 知っておくべきこと」	吉原 永武	鶴門外傷研究会	2013/11/2